

伊万里 市議会だより

第18号

平成18年
(2006年) 8月



車えびも
放流したよ

イマリンビーチに 遊びにおいでよ!
(7月1日海開き)

一般会計
6月補正額：19億1,355万円
予算総額：195億325万円
(対前年度同期 +7億3,032万円、
+3.9%)

議員定数削減 28⇒24へ

賛成多数 で可決(3ページ)

平成18年伊万里市議会第2回定例会 会期日程

6月

開議時刻 午前10時

日	種別	内容
12(月)	本会議	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案等28件……一括上程 市長提出議案等の提案理由説明
14(火)	本会議	議案等に対する質疑
15(水)	本会議	議案等に対する質疑 議案の常任委員会付託
19(月)	本会議	一般市政に対する質問
20(火)	本会議	一般市政に対する質問
21(水)	本会議	一般市政に対する質問
22(木)	休会	常任委員会
23(金)	休会	常任委員会
26(月)	休会	正副委員長会
28(水)	本会議	議会議案、意見書案の上程 議会議案、意見書案の提案理由説明 議会議案、意見書案に対する質疑 常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 議案等の付議順序により討論、採決 特別委員会委員の選任 閉会

議会ホットコーナー

◎全国市議会議長会永年勤続表彰

・勤続15年：下平美代議員

◎議長交際費

議会ホームページで公開を始めました

◎前田和人助役 再任

全会一致で可決しました（5月臨時会）

◎吉富常彦収入役 退任

・4年間、大変お疲れ様でした
・今年度は、会計課長が職務代理者として、収入役の代行をします。
・地方自治法改正により、来年4月から出納長・収入役が廃止となりますが、今回先取りしての実施となりました。



定例会会期日程・議案質疑など

議案質疑

■伊万里駅ビル間の道路横断を抑制するため、ガードコーンを設置する予算として百万円が計上されているが、どのような形を考えているのか。

質問 東西駅ビル間の道路横断を抑制するため、ガードコーンを設置する予算として百万円が計上されているが、どのような形を考えているのか。

答弁 建設部長

横断者が多く危険なため、ペDESTリアンデッキ下の中央線上に、1m間隔でガードコーン34本と抑止掲示用アーチ1本を設置したい。

質問 1m間隔では、抑止力になるか疑問である。デッキの柱に「エレベータをご利用ください」の表示はあるものの、目に付きにくい。市民の安全確保のためには、例えば、路面に「横断禁止」等の表示を目に触れる形で表現する工夫は出来ないのか。

答弁 建設部長

警察とも協議をしているが、道路の幅員等の関係で、規制を伴うものは許可できないとの事である。

意見書

●「義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書」

地方自治法第99条の規定により意見書を提出しました。

（本文は、会議録に掲載します）

議員定数 28人から24人へ 来春の選挙から実施 議員提案により条例改正 賛成多数 で可決！

「議会自ら議会改革を率先する」との全議員の意向を受け、平成17年7月22日から平成18年4月14日までに7回の検討委員会（岩橋委員長、9名）を開催し、各期ごとに意見集約をするなど、議員定数・報酬・政務調査費について慎重に検討、協議を行いました。

その結果、三位一体改革等により、市の財政状況がさらに厳しくなることを認識した上、さらには市民の信託に応えるためにも、議会改革は必要不可欠な問題であることを確認し、議員定数は4人減の24人に、報酬・政務調査費については現状維持とすることとし、条例改正案を本年6月議会に提案すべきとの結論を得ました。検討内容については下記のとおりです。

記

全国の類似団体、県内8市の状況等について、議員定数・報酬・政務調査費等の状況を調査し、伊万里市の現状との比較をするなど詳細について研究、検討した。

★議員定数について

各期ごとの検討では、2減～6減の数字が出

された。検討委員会では、これらの意見を集約したいとの方針から、「4減」としてまとめるとの結論になった。

★報酬について

一部の委員から、定数減になれば報酬は引き上げるべきとの意見も出されたが、報酬に関しては「伊万里市特別職報酬等審議会」に委ねるべきであるとの意見が大勢を占め、当分は「現状維持」との結論になった。

★政務調査費について

定数減になるのであれば、鳥栖市・唐津市並みの年36万円とすべきとの意見も出された。当議会の政務調査費は、領収書添付・残余金返還を義務付けて透明性が高い状況であり、また、この状況下での増額は厳しいとの意見が多く、「現状維持」との結論になった。



議会運営委員会 行政視察報告

5月17日～19日の日程で、議会運営の研修のため、山口県下松市、周南市、広島県呉市の3市議会を訪問しました。

下松市議会では、議員定数削減後に委員会数を4から3と減らすことにより、1委員会の委員数を増やし、審査の充実を図っている点が大変参考になりました。また政務調査費の報告に領収書添付を義務付けている点は伊万里市議会と同じでした。

周南市議会は、合併前の新南陽市が先進的な議会改革を実施されており、当時も研修させて頂いた経緯があります。2市2町の合併により、議会運営の仕方にも若干のズレがあり、苦労された様子が伺えました。議会が必要と判断した問題に関して、市民グループと直接懇談する（議会版タウンミーティングとも言える）「ミニコン」を実施、会派別に作成した政務調査費の収支報告を議会のホームペ

ージで公開、視察後に作成した報告書を議会図書室で公開など、全国的に見ても先進的な改革をされていました。

呉市議会では、予算審査は全議員が委員となる予算特別委員会では審査している点と、企業会計決算委員会報告を11月に臨時議会を開催して行っている点が参考になりました。

また、伊万里市議会では開会後に設定している一般質問の通告メ切を、3議会とも、日程協議のために開会1週間前頃に関開議会運営委員会以前としている点など、今後の本市議会の新たな改革・研究の参考となる点がたくさんあり、有意義な視察研修となりました。

また議長から、議員定数削減に伴って委員会条例改正の必要があるため、その検討を要請されましたので、今後協議に入ります。

◎原口 弘 ○盛 泰子 草野 譲 渡邊 英洋
貞方 喜延 前田儀三郎 占野 秀男 岩橋 紀行

総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、会計課、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に所属しない事項

委員会に付託されました。条例議案6件と一般会計補正予算(第2号)について審査の結果、全議案原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

条例議案関係では、「伊万里市が主役のまちづくり条例」が制定されました。

いま「自らのまちを自らの手で」という市民活動が活発化し、市民と行政の協働による事業が幅広く実施されています。この条例は市民参加型社会システムづくりに必要な基本的ルールを定めたもので、17条から構成されています。

「給料月額の特例に関する条例」はH18年7月からH19年3月までの給料月額を、市長5%、助役4%、収入役・水道管理者・教育長3%それぞれ減額するものです。

この他第4工業用水建設のため、今年7月

からH22年3月までの間、水道企業職員定数を36人→46人に増員する条例等が一部改正されました。

総務委員会関係では、防犯等設置補助金、アスベスト対策工事、中核的病院整備・戸栗美術館建設促進、広域圏組合の電算業務廃止に伴うシステム構築費用、大連市(中国)での交流センター建設調査や梨・焼き物を販売するための事業費等が計上されています。



わくわく映像塾(21世紀市民ゆめづくり計画支援事業)

◎浜野 義則 ○川内 学 黒川 通信 草野 謙
樋渡 雅純 渡邊 英洋 内山 泰宏

文教厚生委員会

★所管 市民部(保健・福祉・環境・人権同和)、教育委員会、市民病院

付託された条例議案8件、一般議案2件、補正予算2件について、慎重審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

条例議案では、環境保全、再生、創造についての基本理念を定め、施策を総合的に推進するために、市・市民・市民団体・事業者の責務を明記した「環境基本条例」、9月からスタートする学校給食センターの管理運営について定める条例、子育て応援基金を創設するための条例が新たなものです。また、県の制度改正により、ひとり親・乳幼児・重度身障者への医療費助成から「食事療養費」が除かれることとなります。

補正予算では、障害者トイレ案内看板設置(4ヶ所分)、老人センタートイレ改修、立花留守家庭クラブ専用施設建設、3歳～小学校就学前児童の入院医療費自己負担分の1/2を助成する「こども医療費助成」、不妊治療への

助成、AEDを22ヶ所に配備、国見中学校改築への基本・実施設計委託、カプトガニ生態展示および保護基本計画策定などがあります。市民の日常生活に直結する分野の予算ばかりであり、枠配分による厳しさを感じながらの審査でした。そのうち、滝野以外の小中学校への配備が見送られた*AEDについて、心臓に疾患の無い人であっても体育の授業中などに必要となる場合があることなどの点から、公民館からの貸し出しではなく、早急に配備を検討するよう、付帯意見をつけました。

また、建設途中の学校給食センターを視察しました。多くの皆様のご尽力で素晴らしい施設が出来つつあり、完成が楽しみです。



カプトガニ(はちがめ)

◎堀 良夫 ○盛 泰子 前田 久年 前田 教一
岡口 重文 原口 弘 下平 美代

※AED:自動体外式・除細動器。コンピューターを内蔵し、電極を胸に貼ると自動的に解析。心室細動か否かを判断し、必要なら電気ショックを指示し行う機器。

産業経済委員会

★所管 産業部、農業委員会

本委員会に付託された議案は、平成18年度一般会計補正予算（第2号）のうち、歳出第5款 労働費、第6款 農林水産業費、第7款 商工費、第11款 災害復旧費（第2項 農林水産施設災害復旧費）でありましたが、慎重審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

補正の概要は、次のとおりです。

労働費では、伊万里地区労働者福祉協議会への補助金90万円が計上され、農林水産業費では、中山間地域等直接支払交付金事業1億7,830万7千円のほか、新たな米政策対策事業、魅力あるさが園芸農業確立対策事業、基盤整備事業、小規模土地改良事業、森林を守る交付金事業などに4億16万5千円が計上され、総額で9億681万4千円となりました。

商工費では、松浦鉄道支援事業2,463万5千円のほか、新商品開発支援事業、商店街活動強化事業、どっちゃん祭り事業、いまり秋

祭り事業などに4,910万9千円が計上され、総額3億5,554万3千円となりました。

農林水産施設災害復旧費では、農地災害、農業用施設災害及び林道災害復旧事業に、総額1,507万8千円が計上されました。

なお、下記の現地調査をいたしました。

- ・（株）伊万里青果市場
- ・（株）SUMCO
- ・ウェルサンピア伊万里
- ・うぐいすが丘梅団地
- ・ツル越冬地



地産地消で伊万里青果市場視察

◎高木 久彦 ○貞方 喜延 山崎 秀明 山田 悟
 笠原 義久 岩橋 紀行 樋渡 伊助

建設委員会

★所管 建設部、水道部

当委員会に付託された議案は一般会計補正予算1件、特別会計補正予算4件について、慎重審議の結果原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

一般会計補正予算のなかで、伊万里駅前線安全施設設置事業として、100万円の事業費で東西駅ビル間を歩行者の道路横断を抑止するため中央線上にガードコーンが設置されます。設置場所ペDESTリアンデッキ下延長35M歩行者の交通安全を守る横断防止の抑止策であり早急に設置されるよう要望しました。特別会計補正予算のなかで農業集落排水事業については、水洗化率の向上を図るため、地元推進協議会と連携し、整備促進が行われるよう要望しました。



伊万里大通り横断防止ガードコーン（予想図）

◎福田 喜一 ○満江 洋介 島田 布弘 前田儀三郎
 占野 秀男 田中 啓三 岩本 盛房

特集

松浦鉄道への支援計画

特集
松浦鉄道への支援計画

みなさん、松浦鉄道（MR）に乗ったことがありますか？

たった1両で走る姿を見た都会からの旅行者が「バスみたいで可愛い」との感想を残しています。市民の皆さんはもとより、特に高校生の通学には欠かせない存在です。たまには、海風を感じながら小旅行気分を味わうのも良いですね…。

その松浦鉄道に対して、今回の補正予算にありますように支援策が始まります。そこで、松浦鉄道の歴史を振り返りながら、支援計画について概要を説明します。

年 度	事 項
明治31(1898)	伊万里・有田間 伊万里鉄道(私鉄) 開通
昭和11(1936)	国鉄が買収
15(1940)	有田～佐世保間 全線開通 ……▶ その後、廃止対象路線に
昭和63(1988)	第3セクターとして営業を開始 資本金3億円（出資:周辺自治体 40%、民間企業等60%）
(この間)	新駅開設（川東・里・鳴石など）
平成5(1993)～	黒字経営
13(2001)～	赤字転落 (旧国鉄から引き継いだ施設や、開 業時に購入した車両が老朽化し、 その修繕に多額の経費を要してきたこと等による)
14(2002)	・株松浦鉄道:経営改善計画案策定 ・松浦鉄道自治体連絡協議会（沿線自 治体2県17市町村）へ支援要請
15(2003)	・第三者評価
16(2004)	・経営改善計画における施設整備計画 を了解 (新経営方針:「安全性の確保」・ 「自立経営の確立」・「地域との共 存」の三本柱を軸に、安全性を確 保。これまでの県や市町村の支援 を前提とした経営体質を改善し、 施設等の次期更新に備えて経営の 自立化に向けた自助努力を行う) ・民間より新社長を迎える
17 (2005)	自治体連絡協議会 支援計画作成 地域に不可欠な広域幹線の公共交 通機関であるため

支援計画の概要

◎総額 32億2,910万円

- ・鉄道近代化設備事業《車両更新、レール重量化》 27億5,640万円（国庫補助対象）
- ・老朽化施設等単独整備事業《橋梁整備、通信線整備》 4億7,270万円
⇒沿線自治体負担分:23億1,523万3千円
(近代化国庫補助金・会社負担分を除く)

◎期間 平成18年度～25年度までの8年間

◎負担の内容

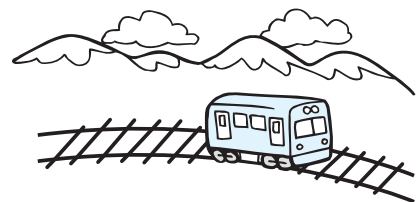
- ・人口、営業キロ、乗車人数、標準財政規模、固定資産税額を基準に算出
⇒伊万里市負担分:1億7,052万6千円
前期支援:18年度～21年度、後期支援:22年度～25年度とし、年度ごとに精査。
新経営改善計画の事業進捗を把握し、経営安定化の確認などを行う。

◎今年度 市負担額 2,453万円5千円

(この他に、連絡協議会負担金6万円、協力会補助金10万円)

伊万里から唐津を經由して福岡都市圏までつながるJR筑肥線に対しても、唐津市などとともに「複線化電化促進期成会」をつくり、JRへ利便性の向上を要請しています。


伊万里駅前の市営駐車場は1回最大24時間まで500円です。たまにはマイカーを休ませて、電車でお出かけしてみませんか？ステキな出会いがあるかも知れません。



一 般 質 問

(質問順)

一般質問事項

議員名	質問事項	議員名	質問事項
山田 悟 (総括)	1. 高齢者の就業機会の拡大について (1)現状と今後の課題 2. 社会体育施設の整備について (1)国見台体育館、プールの今後の改修見直しは (2)国見台陸上競技場の芝貼り替え工事日程は (3)国見台陸上競技場外回りジョギングコースの改修について (4)運動広場における夜間照明の使用方法について 3. 内陸型企業誘致の推進について (1)松浦バイパス沿いに企業誘致を	樋渡 雅純 (一問一答)	1. 「AED」の周知と「救命講習」の取り組みについて (1)使用状況と配置基準等について (2)「救命講習」の取り組みと普及について 2. これまでの一般質問より (1)母子家庭等市営住宅入居の優遇措置について (2)出産育児一時金の受領委任払いについて 3. 「介護予防」を中心にすえた事業の充実について (1)「予防重視」への転換についての考え方 (2)地域の拠点作りについて
盛 泰子 (一問一答)	1. 市長マニフェストについて (1)事後検証をどのように行うか 2. 市民の安心・安全に向けて (1)信号機の設置 3. 子育て支援の充実に向けて (1)子ども関係専管課の設置 (2)子育て支援センターの移転 (3)病後児保育への準備状況	樋渡 伊助 (総括)	1. 高齢者等の交通弱者に対する手だてについて 2. 第24回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会の評価について
笠原 義久 (一問一答)	1. 中核的病院整備計画について (1)中核的病院のありかた (2)計画の今後の推移 2. 市職員定数について (1)削減計画 (2)退職金の財源	原口 弘 (一問一答)	1. 立花台地第2期土地開発地区の経緯について 2. 合特法についての本市の見解は
占野 秀男 (総括)	1. 団塊の世代対策 2. 子育て支援の具体策について 	内山 泰宏 (総括)	1. 伊万里市の森はこのままだとどうなるのか (1)伊万里市木工芸センター「ピノキオの家」・「伊万里腰岳健康の森」施設の有効活用 2. 伊万里市の建設業は生き残れるのか (1)企業連携、新分野促進のための支援策はないか 3. 伊万里市内グループホームにおける防災は大丈夫か (1)法的なクリアだけで大丈夫か
		高木 久彦 (一問一答)	1. (株)SUMCO新工場建設に伴う諸問題について 2. 社会保険浦之崎病院と市民病院の統合について
		山崎 秀明 (一問一答)	1. 地域防災対策について 2. 可燃ごみの減量化対策について 3. 環・伊万里湾核都市研究会について

一般質問

高齢者就業機会
拡大について

山田 悟

質問 団塊世代の定年退職が来年より始まる。退職後もせめて年金を貰えるまでの期間は働く必要がある方々が増えると思われる。このような高齢者に対し、どのように考えているか。

答弁 産業部長

高齢者の就業は大変難しいものがある事は十分認識している。高齢者就業相談所、シルバー人材センター等と連携し雇用拡大に向け情報を発信していきたい。また今年4月より改正高齢者雇用安定法が施行されたので、地元企業に対し商工会議所やハローワーク等と連携し対応していく。

社会体育施設の
整備について

質問 国見台公園内の体育施設が老朽化しているが、改修計画は。また運動広場の夜間照明を施設の利用形

態に合わせて改造できないか。

答弁 教育部長

いずれの施設も改修の必要性は充分認識しているが、改修には多額の費用を要するので現状のまま使用願いたい。

内陸型企業誘致
推進について

質問 市東部の松浦バイパス沿線には広大な工場適地がある。この地へ企業誘致推進を。

答弁 産業部長

業種によって湾岸部は潮風が影響してなじまない企業もある。このような場合は内陸部の未造成地をオーダーメイド方法で紹介する。

答弁 市長

元気なまちとしていくためには企業誘致が一番即効性がある施策と考える。松浦バイパス沿線への企業誘致は内陸部を希望する企業に対し積極的に紹介していく必要がある。

信号機の設置

盛 泰子

質問 信号機待機箇所は市内で13箇所、県内では230箇所にあぶが、県警の年間信号機予算は、今年度、県全体で10基分しかない。市内優先順位1位のあさひヶ丘入り口の状況を見れば緊急度はかなり高く、その他の箇所もこのままでは「待ち」の状態が続くばかりである。市民の安全を確保するために、市長は県に対して強く要請すべきだ。

答弁 市長

7月に県内市長会から県へ出す要望事項に、信号機の問題を加えると共に、知事に対して直接要請する。

子育て支援策

質問 ①子育て支援センター「ぼっぼ」は利用者も多く、母子生活支援施設との共存には無理がある。移転

を検討すべきだ。②病後児保育への準備状況は。

答弁 市長

①市民センター内のちびっこルーム（ひまわり園）や、市役所前の電算センターなどの公共施設跡地利用を市内で検討しており、「ぼっぼ」の移転先も早急に決めたい。②必要性は理解する。医師会と相談しながら、NPO法人での開設も視野に入れ、早期に実施できるように検討する。

市長マニフェスト

質問 選挙時に作成されたマニフェストを広く公開すべき。事後検証をどのように行うか

答弁 市長

公職選挙法をクリアできれば市のホームページなどで公開したい。事後検証は第三者、例えば青年会議所あたりをお願いしたいと考えている。

中核的病院整備計画
のあり方について

笠原 義久

質問 市長は選挙公約の中で中核的病院建設をうたっているが、市長が描く中核的病院とはどんなものか。

答弁 市長

西部医療圏はベッド数は多いが医師数は非常に少ない。ガン等に対応出来る高度医療病院、又24時間体制の緊急医療施設で200床位の病院を目指したい。

質問 社会保険病院との整合性は。

答弁 市長

社会保険病院の将来への問題もあり、これが民間にでも売却されるとなると医師会は困るとの声もある。両院は長崎大、佐賀大とのパイプがあり医師の派遣をたやすくする。既に両院は連携体制をとっている。両院の良さを生かして市民の要望に応えられる中核的病院を考えている。

一般質問

市職員定数について

質問 パソコン等の導入により事務処理能力が格段に上っているが、現在の職員定数をどの様に考えているのか。

答弁 政策経営部長

国は4.6%の削減を考えているが市はそれを上回る5%削減を5年間で実施していく。

質問 2007年問題で今後多くの定年退職者が出る中で、その退職金の財源は。

答弁 政策経営部長

国は19年から平準の退職人員を越えた人数分については退職手当償を認めている。基金と同じ扱いでこれを退職金にあてる。



団塊の世代雇用対策

占野 秀男

質問 団塊の世代といわれる戦後に生まれた多くの年代が今後定年を迎えることになるが、定年延長や雇用対策について市役所庁内や市内の企業の対策はどのようになっているか。また都会に出ている伊万里出身のこの世代の人を、ふるさと伊万里に定住してもらう対策は考えられているか。

答弁 産業部長

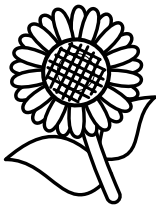
高齢者雇用安定法に対応して県内の300人以上の企業では、ほとんどが雇用延長や、継続雇用などで対応されている。市は再任用制度があるのでその適用を検討している。佐賀労働局とも連携し法の趣旨を徹底していきたい。定住対策は、空き家調査を実施したが、県と協力しながら今後も取り組みたい。

少子化対策

質問 子育て支援については市の「次世代育成支援行動計画」にきめ細かな対策が掲げられ実施されている部分もあるが、企業や支援の必要な人への理解は行き届いているか。また、結婚、出産などで退職の強要や職場での男女差別はないか。子育て支援の趣旨が十分機能するための対策は取り組んでいるか。

答弁 総務部長

退職強要、男女差別の事例は以前の調査で何件もあり、不十分な点もあった。今後、法律の周知を努力していきたい。子育て支援については、企業、市民にホームページなどで周知を強めたい。



AEDの周知と救命講習の取り組み

樋渡 雅純

質問 AEDの配置に関して、まず各分署から整備をと訴えてきたが、現状と小児への対応について。

答弁 消防長

各分署には現在すべて、設置している。8歳未満、25kg以下には基本的に使えない。使える機種が一つあるが導入していない。

質問 全国の自治体では大半が小中学校へ優先的に配置されているが、今後、学校配置への考えと8歳未満への対応は。

答弁 市民部長

効果的な配置を考えて行った。体育行事等には公民館から貸し出す。小中学校においては検診等で、心臓疾患の把握もなされている。利用状況を見守って考えたい。又、対応出来る機種を選定したい。

質問 救命講習の内容と対象者は。

答弁 消防長

施設内の勤務者に、AEDの知識、実技を含む一歩踏み込んだ救命講習2(4時間)を予定している。先生については計画を立てて受講してもらう。出前講座を通して市民に呼びかけた。

母子家庭等市営住宅入居の優遇措置

質問 前回、課題を整理し研究したいとの答弁であったが、その後の検討は。

答弁 建設部長

他の市町村の状況も調査してきたところだが、現在、国の公営住宅法の改正が本年中にまとまる予定なので、それにあわせて検討する。



高齢者等の交通弱者に 対する手だてについて

樋渡 伊助

質問 市全体的な交通対策として福祉の対策、子ども達の通学の対策について。

答弁 産業部長

地域交通の利便性、安全性の確保を目的とした道路運送法等の一部を改正する法律が今国会で成立した。改正により規制が緩和され、コミュニティバスや乗合タクシー等の普及促進、NPOによる制度化も可能となり、今後は輸送サービスの選択肢が増えるので、制度を効果的に活用できないか調査、研究を行っていききたい。

第24回全国高校女子 ソフトボール選抜大会について

質問 どのように反省、評価するか。

答弁 教育部長

①大会は今年3月伊万里市で開催され、市職員130人を係員として配置し、大会運営に全面的に支援、協力を行った。②配宿の県外46校に対し、チーム連絡員として配置した結果、配宿を担当した旅行代理店からも全国大会では一件も苦情はなかったと聞いている。③経済効果については宿泊数延3707泊からして、かなりの効果もあり、さらに伊万里の名を全国に情報発信する場として、数字で示すことの出来ない大きな効果があった。

質問 大会での反省や経験を来年の全国高校総合体育大会に、どのように活かしていくのか

答弁 教育部長 高校総体は、伊万里市で7月28日からホッケー競技が開催されるが、屋外での競技であることから、雨天時の対応や選手の受入体制、輸送、駐車場対策など大いに参考になり、これらを活かして行きたい。

立花台地第二期開発 地区の経緯について

原口 弘

質問 この地区の入居者の建物が損壊しているが、分譲地の地盤沈下が原因と考えられる。分譲した市に責任はないのか。また造成工事・分譲などの経緯はどうだったのか。

答弁 建設部長

この造成工事は平成6年から11年度に実施し、平成9年度より、完成した地区から分譲を開始。現在148区画の分譲をしている。分譲に当たっては、土地の状況や建築基準法に基づく制限や、水道・電気・ガスの供給や排水設備の状況と、土地代・登記手続、物件の引渡し手順の説明をし、土地の切り盛り図を表示し図面で確認を頂いている。土木工事等は仕様書に基づき実施し、地盤は安定した状況と判断している。地盤調査に基づき実情に合った基礎の設計を行えば、

建物への影響はないと考える。

質問 分譲地の西側にある階段の側壁コンクリートに亀裂があり、合せて4月の大雨で開発地内の法面が崩落しているが、分譲地との関連・影響はないのか。

答弁 建設部長

質問の箇所は、延長23メートルの階段で、コンクリート壁の伸縮の歪みで生じたものであり、その後、亀裂の拡大は無い状況にある。

尚、4月9日から11日にかけての豪雨により付近の路肩が崩落したが、災害復旧工事の申請を行い、6月6日の査定において採択を受けた。尚、この災害調査に当たり、地質ボーリングを行ったが、道路本体・分譲地への影響はないと考えている。

(1問省略)

伊万里市木工芸センター 「ピノキオの家」、その周辺 の「腰岳健康の森」について

内山 泰宏

質問 森・里山の学習活動の拠点として考えるべきでないか。

答弁 市長

ピノキオの家の利用者数は増加している。この周辺を含み活用できるように市としてアイデア、イベントなど森・里山の学習拠点として考えていく。

建設業の新分野 進出について

質問 伊万里市の公共事業は最盛期と比べると3分の1に減少している。建設業で働いておられた職員の方々がお辞めになったというお話を聞くたびに寂しいかぎりである。関係者が知恵を出し合い、いい方向に進めばと思う。特に新分野について支援が必要でないか。

一般質問

答弁 市長

市の公共事業は今後、西九州自動車道・伊万里湾整備など公共事業は増えて来ると考える、しかし建設業も自ら努力していく必要がある。市としても産業振興の立場で知恵を出して行く。

伊万里市内グループホームの防災について

質問 今年1月に発生した大村市での火事、伊万里市内で利用されるご家族の方にとりまして大変心配されていることと思う。特に施設周辺との緊急体制が必要と考えられる。伊万里市としてどのように指導されていくのか。

答弁 市長

地域と一体となった防災対策などが必要と思う。そこで「いまり暮らし安全条例」を制定するよう考えていきたい。

SUMCO新工場建設に伴う諸問題について

高木 久彦

質問 工業用水は、有田川から久原の貯木場へ導水する計画であるが、水利権は解決しているのか。又、貯木場の淡水湖化の可能性は。

答弁 水道部長

水利権については、地元と十分協議を行い、来年の早い時期に暫定水利権が取得できる見込みである。又、淡水湖化については、全国的に例がないようであるが、現在地質調査を行っており、専門家の話では可能性は十分あると聞いている。

質問

多額の事業費が予想されるが、経費の負担はどうか。

答弁 水道部長

総額で約150億円が見込まれ、国30%、県・市で70%負担になるが、市の負

担は企業債を考えており、一般会計からの繰り入れも必要になる。

質問 通勤時の渋滞が予想されるが、交通対策は。

答弁 建設部長

204号里地区の四車線が19年には供用開始になることと、臨港道路の早期四車線化を県へ要望したい。

浦之崎病院と市民病院の統合

質問 統合問題は、現在どのような状況になっているか。

答弁 政策経営部長

コンサルタントに調査委託を行い、その結果、統合可能な報告を受け、統合に向け取組んでいるところである。社会保険庁へ譲渡の申し入れを行っているが、社会保険庁改革関連法案が今国会で先送りとなり、決定は今年秋ごろになる予定である。

地域防災対策

山崎 秀明

質問 毎年実施の災害危険箇所調査に対する対応は。農林地崩壊防止施設及び急傾斜地崩壊対策・防止施設の維持管理は。

答弁 総務部長・産業部長・建設部長

現地調査を行い対策を協議し、実施内容を区長へ報告する。両施設とも通常の施設保全上の維持管理は、所有者個人が行うことが原則である。ただし、天災による被災や国県の補助事業による施設は、維持管理の事業化が県において検討中。

可燃ごみの減量化対策

質問 ごみの減量化について各種計画書等において取り組みが示されているが、具体的な実施方策とその指導は。

答弁 市民部長

伊万里市地域省・新エネルギービジョン及び環境基本計画のその目指す目的は、地域で取組む省エネルギー対策や新エネルギーの活用方策と資源循環型社会を推進するもので、直接的にごみの減量化には繋がらないものの分別指導による資源の再利用の意識を高めたい。

環・伊万里湾核都市研究会について

質問 所期の目的と今後の推進は、上級行政機関および民間団体との連携は。

答弁 政策経営部長

伊万里市と松浦市で組織し伊万里湾域が一体となり地域産業や経済活性化、観光振興等の多方面の連携の中・長期視点から研究する。

具体的な内容まで協議は進んでないが議会や民間団体を取り込んだ研究会とし、国県へも提言する。

平成17(2005)年 行政視察受け入れの状況 (下半期)

月	来訪議会名	人数	視 察 項 目	
7	京都府長岡京市議会	4	ごみの有料化	会
	愛知県安城市議会	10	認知症予防事業	委
	山口県柳井市議会	10	つくる漁業・育てる漁業の推進	会
8	京都府京都市議会	6	伊万里焼などの伝統産業の育成	会
	宮崎県日向市議会	5	P F I 方式による給食センター	会
10	長野県岡谷市議会	9	市税の確保・コンビニ収納、F A 制度	委
	茨城県筑西市議会	13	伊万里駅前線街路整備事業	委
	石川県野々市町議会	9	男女共同参画、行政改革	委
	千葉県銚子市議会	8	指定管理者制度、P F I による給食センター	委
11	福井県勝山市議会	8	21世紀市民夢づくり計画、地域の特性を生かしたまちづくり	委
	愛知県岡崎市議会	6	住民自治促進（公民館長公募関係）	委
	青森県五所川原市議会	9	伊万里はちがめプラン	委
	兵庫県加西市議会	3	P F I による給食センター、市民病院の業務改善	会
	和歌山県田辺市議会	8	伊万里駅前線整備事業	委
	長崎県五島市議会	6	財政健全化	会
	愛知県刈谷市議会	5	伊万里はちがめプラン	会
	大阪府茨木市議会	4	子どもの居場所づくり、子育て支援	会

※ 人数は、議員のほか随行者も含まれます。

※ 「委」は委員会、「会」は会派、「個」は個人での視察を意味します。

※ 多くの場合、伊万里市内に宿泊されています。伊万里市議会も出来るだけ視察先の自治体に宿泊するように努めています。

残暑お見舞い
申し上げます
公職選挙法の規定により、選挙区
内の皆さんへの初盆のお参りや、
時候のご挨拶には制限があります
ので、失礼させていただきます。

議員一団



▲大人も夢中…（自転車紙芝居）

図書館
ほしまつりにて



天使？の歌声▶
（いすのき合唱団）

発行
伊万里市議会
伊万里市立花町二三五―一
☎0955-23-1211
☎0955-22-1277
E-mail: gikai@city.inari.jp

編集
市議会だより編集委員会

印刷
山口印刷株式会社

◎盛 泰子、○樋渡雅純、
山田 悟、前田久年、
前田儀三郎
（顧問）島田布弘、原口弘

4年任期最後の編集委員会メンバーとなりました。議会の様子をお知らせするため早くお知らせするため鋭意努力していますが、市長選挙後の議会は開会が遅いため、今回は「議会翌月の15日発行」は出来ませんでした。
更なるバージョンアップのため、ご意見・ご要望をお寄せください。

編集後記

